

指定管理者評価シート

Ⅰ 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢遺跡保存館
2 指定管理者	公益財団仙台市市民文化事業団
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 41,908人(前年度比 118.4%) 令和5年度 35,392人(前年度比 112.6%) 令和4年度 31,419人(前年度比 142.0%) 《事業》 富沢遺跡の保存・公開事業、旧石器時代の復元林の維持管理事業、年3回の企画展を含む展示事業、普及啓発事業、調査研究事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 111,851千円 (113,973千円) ・ その他市が負担した費用 1,595千円 (2,420千円) 《収入》 ・ 使用料収入 11,451千円 (8,065千円) ・ その他収入 133千円 (166千円)
6 利用者の声	《実施状況》 来館者が自由に記入できるアンケートを通年設置したほか、12月1日～22日まで来館者全員に用紙を配付し展示や事業内容、職員の対応等についてのアンケートを行った。また地域との連携を強化するため、近隣町内会会長に地域課題に関する聞き取り調査を行った。

Ⅱ 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、富沢遺跡の保存・公開と旧石器時代の復元林の維持活用等について職員が十分理解している。また、展示事業や体験・講座などの普及啓発事業、学校との連携、資料の保管・調査を通して、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績、配置状況は適切であり、事業計画書に基づいて開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の保護や事故防止対策、事故・災害発生時の対応体制も確立され、事故等発生時には所管課へ迅速に報告書が提出されている。また、隔週で行う職員のうち合わせにおいて、連絡事項だけでなく、研修内容や問題事項およびその対応マニュアルについての情報共有が徹底されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備、備品は適切に管理され、利用者にとって快適かつ安全に過ごせる環境を保持し、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画に則った取組みが行われている。地下展示室の遺構保存については、日常の温湿度管理や観察とともに外部有識者会議である保存処理検討会の指導を受けながら、適切に管理されている。氷河期の森を復元した野外展示「氷河期の森」についても、日常的な観察とともに外部有識者会議である植生検討会の指導を受けながら、病害虫の駆除や植栽の手入れを行い、適切に維持されている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティング等を通じて共有し、改善を図っている。また、広報においては、近隣町内会への積極的な情報発信のほか、ホームページやFacebook等のウェブ上の広報媒体を通じて幅広い世代に情報を発信し、広報活動にも積極的に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	協定書や仕様書等に従って適切に施設を管理するとともに、事業計画書に基づき適切に事業を実施している。学校・NPOなどの外部機関と連携して事業を展開しているほか、ボランティアによる体験用石器づくり等の積極的な活動など、地域社会と良好な関係を維持している。	14/14

三 評価総括

《指定管理者（公益財団仙台市市民文化事業団）による自己評価》
管理運営にあたっては、所管課と協議しながら協定書等に基づき適切に行った。入館者は年々増加しており、特にインバウンド層を含む有料入館者の増加により、収入が増加している。富沢遺跡の保存・公開、旧石器時代の景観を復元した野外展示の維持管理とともに、地域の文化財や旧石器時代に関連した企画展示、学校教育との連携や生涯学習の推進を目的とする事業を行った。また空調機器・衛生設備・消防防災設備の修繕等、長寿命化改修工事を念頭に優先順位をつけながら施設・設備の維持管理に努めた。 コロナ禍で減衰した事業内容の回復・活性化を意識して事業を企画し、特別企画展や地底の森フェスタ事業はコロナ前とほぼ同水準の内容で開催できた。そのほか近隣学校や外部機関への出前活動にも積極的に取り組み、生涯学習の推進や地域との連携強化を心掛けた。 事業団自主財源を用いた事業も継続して実施した。演劇と博物館を結び付ける「ミュージアム・シアター狩人登場！」は新コンテンツの開発を進めた。地域交流促進を目的とした事業では、閉館後にコンサートや野外を利用した活動を行ったほか、事業を記録する動画制作と視聴体験イベントなども行い、多くの来館者・市民に向けたアピールを行い好評を得た。 今後も社会動向に留意しながら、生涯学習施設としての機能強化、地域住民と連携・協力し地域の魅力を現出させる活動等を推進していく。また各地のミュージアム等と連携し、オンラインも活用しながら富沢遺跡の意義・価値の創出と発信を心掛け、仙台市の文化行政の一端を担っていく。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
施設の管理運営体制については、協定書や仕様書等に基づき適切に業務が行われている。施設の維持管理については、建物や設備の老朽化がみられるなかで日常的な監視を続け、設備の異常があった場合にも迅速に対応している。特に大規模改修工事に向けて必要な検討を所管課と緊密に行っている。 富沢遺跡の保存管理については、温湿度や塵埃等の日常管理と観察を継続し、旧石器時代の復元林についても日常管理を欠かさず、どちらも専門家の指導を受けて適切な手法による維持管理を実施している。次年度に向けては、特に大規模改修工事に向け、遺跡の安全な長期保存・養生について検討し、必要な準備を進めることが望まれる。 利用者数は昨年度に続いて増加しており、特にインバウンド層を含む有料入館者の増加として評価できる。調査研究活動においては、令和5年度末に締結した韓国の博物館と国際文化交流協約に基づいて、学芸員を派遣するなど積極的な学術交流を継続している。 普及啓発事業については、本年から職員が展示室に滞在し、来館者への案内や来館者の声を直接聞く機会を定期的に設ける新たな取り組みを行っており、来館者サービスの向上という点で評価できる。また、自主財源事業として継続して実施している「狩人登場」は、言語や年齢等によらず多様な来館者に展示の内容を直感的に理解させる独自性の強い展示手法として高く評価でき、広く市民の学習活動を支援するという点で、設置目的にも合致しているといえる。また、Facebook・YouTube等の広報ツールが積極的に利活用されている。今後、大規模改修後の施設の展望として、地下展示室等でのデジタル機器の活用による新たな展示手法の開拓も期待される。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課